



八戸ブックセンター 企画事業報告書 (令和2年度版)

まちづくり文化スポーツ部
文化創造推進課 八戸ブックセンター



八戸ブックセンター
HACHINOHE BOOK CENTER

目次

八戸ブックセンターの基本方針	1
取り組みの全体像	2

本を読む人をふやす

(1) 本のまち読書会	3
(2) アカデミック・トーク	4
(3) セレクト・ブックストア (本の陳列・販売)	5
(4) 学校との連携 (小学校との連携)	6
(5) 学校との連携 (高校・大学との連携)	7
(6) 読書会ルーム	8

本を書く人をふやす

(1) 執筆・出版ワークショップ	9
(2) カンヅメブース	10

本でまちを盛り上げる

(1) ギャラリー展示	11
(2) パワープッシュ作家	12
(3) 本のまち八戸ブックフェス	13
(4) ブックサテライト増殖プロジェクト	14
(5) フリーペーパー「ほんのわ」	15

参考データ① 令和2年度八戸ブックセンター決算額	16
--------------------------	----

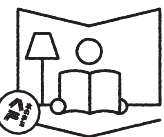
参考データ② 来館者数、販売冊数・販売額の推移	17
-------------------------	----

八戸ブックセンターの基本方針

八戸ブックセンターは、全国初の、まったく新しい書店のかたちです。

1. 本を読む人をふやす

八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。

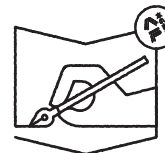


2. 本を書く人をふやす

当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。

3. 本でまちを盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。



八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

取り組みの全体像

民間書店

- 民間書店で取り扱いにくい本を八戸ブックセンターで揃えるなど差別化・補完することで、市民が本に出会う環境を豊かにします。
- 八戸ブックセンターがハブとなり、民間書店（員）の連携・交流の機会をつくるほか、市外の個性的な書店経営者を招いた勉強会などの機会を通して、民間書店の魅力づくり強化のための支援を行います。
- マイブック推進事業（ブッククーポン）を通し、民間書店での本の購入を促進します。

八戸ブックセンター

本の販売という単一の機能に留まらない、
本を通した市民交流およびまちづくりの拠点施設としての3つの機能。

本を読む人 をふやす

様々な形態の読書会や、講師を招いての本にまつわる講座など、本に出会う機会を様々な演出します。

本を書く人 をふやす

執筆スペース「カンヅメブース」の設置や、本の執筆・出版に関する学びの場の提供のほか、出版などの相談を受け付けます。

本でまちを もりあげる

本を介し、交流や賑わい、他施設との連携による回遊など相乗効果を生み出す多彩な企画を実施します。

本を販売する

新刊書籍／ビジネス／絵本・児童書
趣味・実用書／エンターテインメント参考書
雑誌・コミック等の販売

文学・評論／ノンフィクションアート・建築
人文・思想サイエンス・紀行等を
テーマ別に陳列するセレクトブックストア

「マイブック推進事業」／小学生対象

「ブックスタート事業」／乳幼児と保護者対象

おすすめ本リスト
「本はともだち」を
ブックセンターで作成

本を貸す

公立図書館

- 八戸ブックフェスなど企画での連携を図ります。
- 絶版本など購入が出来ない書籍への問合せに対応した情報提供を行います。

学校（図書館）

- 市内小中学校を訪問しての「出張ブックトーク」を行います。
- 高校生対象の読書ワークショップや文芸大会の連携を行います。
- 八学大、八戸高専学生が学校図書館の本の選書をするブックハンティングなどを実施します。

はっち・美術館などの 公共施設や民間施設

- 公共施設との企画連携による回遊促進など相乗効果を図ります。
- 市内の飲食、小売などの店舗、公共施設等に本棚を設置する「ブックサテライト」を展開します。

本のまち読書会

トークイベント「本をつくること・届けること」(ゲスト：島田潤一郎氏 (夏葉社))



新たな本との出会い、 本を通じた交流を生み出す

その時々合った様々なテーマを設定した「読書会」により、新たな本との出会いを創出しており、この企画をきっかけに、新たなコミュニティがつくられ、市民主体のイベントも実施されています。

ゲストを招いた読書会

作家や編集者、出版社などのゲストを招き、違う目線からの話を聞ける機会も設けることにより、更に深く本を読むきっかけに繋がっています。



令和2年度実施状況

- ・クリスマスの絵本を楽しもう！(ゲスト：八戸高専 戸田山みどり氏)
- ・トークイベント「本をつくること・届けること」(ゲスト：島田潤一郎氏 (夏葉社))
- ・滝口悠生「長い一日をよむ」(一部オンライン)(ゲスト：滝口悠生氏)
- ・K-BOOK フェスティバル前夜祭「ハン・ガンの作品を読む」
- ・私のベスト本！2020
- ・本 de 美術鑑賞
- ・知の棚へのチチェローネ「大いなる漢字の世界」

アカデミック・トーク



「テラヤマがオリンピックに参加していた!？」(ゲスト：寺山修司記念館 広瀬有紀氏)



「PLEASE」をひとりでつくろうと思った衝動と COMME des GARÇONS のページをつくる創造 (ゲスト：雑誌編集・フォトグラファー 北原徹氏)

知的好奇心を刺激する

教育機関や文化施設から講師を招いての、本を軸にしたアカデミックなトーク。各分野からの専門的なお話により、本に対する興味を沸き立たせます。

バラエティーに富んだ専門家

ファッション雑誌の編集と写真撮影を行っている北原徹さんを講師に迎えた回では、ファッション関連への就職を目指している高校生も数多く参加し、北原さんのお話により自身の将来について考えるきっかけとなるイベントとなりました。

幅広い世代の方に

年配の方からは「普段は聞くことがないため良い機会」、高校生からは「大学の先生の話が聞ける貴重な機会」との意見をいただいています。最近では、小学生向けのワークショップも開催し、親子での来館に繋がっています。

令和2年度実施状況

- ・「すごいぜ! 菌類 その多様な“生き方”」(ゲスト：八工大 星野保氏)
- ・「エンジニア レオナルド・ダ・ヴィンチ」(ゲスト：八戸高専 圓山重直氏)
- ・「なったらどうする? 裁判員!」(ゲスト：八学大 高須則行氏)
- ・「テラヤマがオリンピックに参加していた!？」(ゲスト：寺山修司記念館 広瀬有紀氏)
- ・「PLEASE」をひとりでつくろうと思った衝動と COMME des GARÇONS のページをつくる創造 (ゲスト：雑誌編集・フォトグラファー 北原徹氏)
- ・青森県立美術館「富野由悠季の世界」解説 (ゲスト：青森県立美術館 工藤健志氏)
- ・親子で楽しむ! 春休みわくわく科学教室 (ゲスト：理科教育コンサルタント 井上貴之氏)

セレクト・ブックストア

本を買って手にとるという体験

市直営施設がなぜ本を販売するのか



品揃えを補完する（民間書店との棲み分け）

「売れ筋だけの取り揃えでは文化の多様性はますます先細る」という地方都市における大都市との文化格差課題を解消する取組み。

本との偶然の出会い（セレクトブックストア部門）

「出版物は全部置く」都心の大型書店とは異なり様々なジャンルの入口となる本を「敢えてセレクトして並べる」ことでこれから出会う未読ジャンルへの選択肢を提案している。



写真左・八戸ブックセンター内

写真右・フォーラム八戸内



ひとつのテーマを設定した上で選書をしていただく「ひとつの棚」（写真は、八戸高専 圓山重直校長）

学校との連携 《小学校との連携》



学校図書館司書研修会

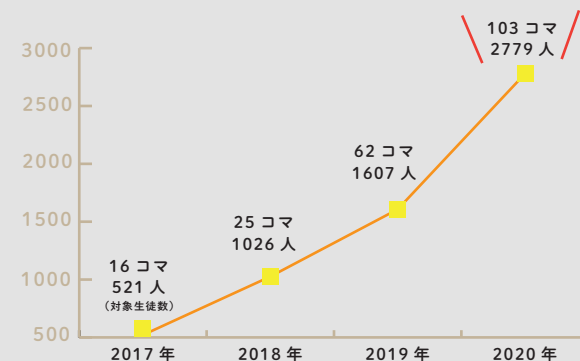
ブックセンターで月 1 回行われる研修会では、子どもと本が出会える環境づくりを目指して、子どもの本についての意見交換や情報提供をしています。

出張ブックトーク

学校図書館司書を中心に、八戸高専戸田山みどり教授、図書館職員、ブックセンター職員が市内の小学校を訪問し、おすすめの本を紹介しています。



実績) 年々申込数が増えています！



小学生へ向けたおすすめ本リスト

ブックセンターが、戸田山みどり氏とともに主な選書を担当。2000 円分のマイブッククーポンと共に、市内の全小学生へ配布。リストの紙は、地元の三菱製紙八戸工場の紙を使用しています。(協力・三菱製紙)



学校との連携 《高校・大学との連携》

本を読む時間がない高校生にも本を手にする体験を。

本を選んで手に取る体験づくり

高校生・高専生・大学生が、本と出会う場を創出する

(令和2年度実績)

ブックハンティング 10名参加 八高専

ブックハンティング 7名参加 八学大 市長表敬

読書のワークショップ 11名参加 工大二高

※ブックハンティング：学校・大学図書館に配架する本を、ブックセンター内で生徒自ら選書するもの。



書いたものが本になる、

作家になる体験づくり

ZINE(=小冊子)「読むと行きたくなる青森」制作

(令和2年度実績)

県高総文祭文芸講習会において、生徒の文芸作品をブックセンターでZINEにして配布。「かたち」にする体験づくりをしました。

県内から14名参加



書かれたものを作品にする、本になる体験づくり

小説を引き立たせる「カット絵」を描く

(令和2年度実績)

本作りワークショップ 45名参加 工大二高美術コース



施設の活用

読書会ルーム

市内読書団体などへの貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業にも活用しています。

期間	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12~H29.3)	20 件	5.0 件	5 件	1.3 件
平成 29 年度 (H29.4~H30.3)	50 件	4.2 件	78 件	6.5 件
平成 30 年度 (H30.4~H31.3)	57 件	4.8 件	69 件	5.8 件
令和元年度 (H31.4~R1.3)	73 件	6.1 件	42 件	3.5 件
令和 2 年度 (R1.4~R2.3)	50 件	4.2 件	32 件	2.7 件



貸し館で利用されている方からは、落ち着いた雰囲気の中、館内の本を読むことができ、気軽に利用できるのご意見をいただいています。

執筆・出版ワークショップ



短い小説を書くワークショップで 「書く楽しさ」を体験

超ショートショート講座は高校の部・一般の部それぞれ 27 人が参加。「文章を書くことは苦手だったけれど、楽しく書くことができた」という声も多く、ものを書く楽しさを体験していただくことができました。

令和2年度実施状況

- ・超ショートショート講座（高校生・一般の部）（ゲスト：ショーショート作家 田丸雅智氏）
- ・言葉から受け取った感覚を「イラスト詩歌カード」にしよう（ゲスト：イラストレーター 齋藤さち子氏）
- ・書評の愉悦ブックレビュー in 八戸（ゲスト：書評家 豊崎由美氏）



文芸作品からイメージをふくらませて 「つくる楽しさ」を体験

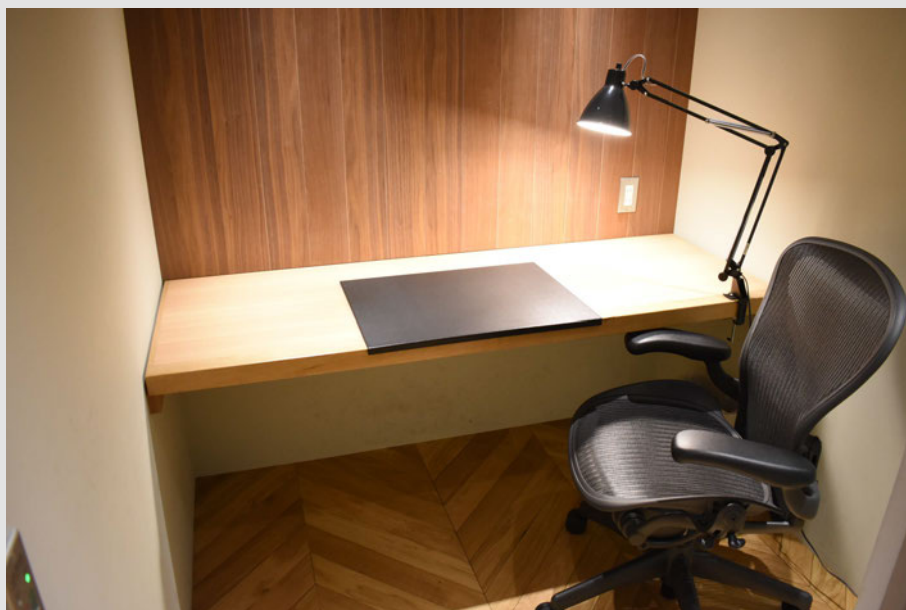
寺山修司の詩からイメージをふくらませてイラストカードをつくるワークショップでは、高校生が文芸作品をデザインするブックデザインにも通じる体験をし、展示も行うことにより「発表し、観てもらう」体験に繋がりました。

施設の活用

カンヅメブース

本などを執筆したい人向けに貸出しており、
利用するには、活動内容などを教えていただき、
「市民作家登録」をしていただいています。

期間	市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12～H29.3)	77 件	77 件	65 件	16.3 件
平成 29 年度 (H29.4～H30.3)	66 件	143 件	174 件	14.5 件
平成 30 年度 (H30.4～H31.3)	51 件	194 件	153 件	12.8 件
令和元年度 (H31.4～R1.3)	41 件	235 件	204 件	17.0 件
令和 2 年度 (R1.4～R2.3)	24 件	259 件	278 件	23.2 件



利用されている方からは、執筆に集中できるだけでなく、
気分転換に館内の本を読むこともでき、他では体験できな
い空間とのご意見をいただいています。

ギャラリー展示

本そのものに興味をもってもらう



“本”を切り口にした さまざまな展示

本だからこそできることを模索し、展示の材料としています。『本で旅をしよう。』では、おもに市内で活動する方々 66 名（内・公募 12 名）に「読むと旅したくなる本」を選んでいただき、プロフィールやコメントと共に展示しました。



本や、本にまつわるできごとの奥深さを知る ことで、本への興味をふくらませる。

「ブックデザイナーの仕様書展」では、第一線で活躍するブックデザイナーの方々に、本を作る上での「仕様書」を紹介していただきました。一冊の本の中にはデザイナーの方たちのアイデアが詰まっています。そのアイデアを知ることが、本を手に取り興味をふくらませるきっかけになることを狙いとしています。

パワー・プッシュ作家



「八戸の作家」「八戸の作品」を盛り上げる

八戸に関係する本を幅広く紹介し、「本のまち八戸」を盛り上げる企画のひとつとして実施しています。

令和2年度実施状況

- ・『奥州南部観音霊場巡り 糠部三十三札所』刊行記念トークイベント（著者：滝尻善英氏）
- ・三浦哲郎『盆土産と十七の短篇』刊行記念読書会



『奥州南部観音霊場巡り 糠部三十三札所』刊行記念企画では、出版秘話を聞きながら、地域の歴史を深く理解できるイベントとなりました。

また、『盆土産と十七の短篇』刊行記念企画では、神奈川近代文学館「三浦哲郎展」の図録も紹介しながら、視点の違う読み方を楽しむなど、三浦哲郎の世界をさらに多くの方に知ってもらいたいイベントとなりました。

本のまち八戸ブックフェス



令和2年度実施状況（9月27日実施）

- ・一般応募型による一箱古本市（8店舗）
- ・市内書店の出店（4店舗）
- ・飲食ブース（6店舗）
- ・全国の出版社によるオンライントーク
- ・学校図書館ブック・リサイクルフェア
- ・和綴製本オリジナルノートづくりワークショップ
- ・はっちライブラリ雑誌リサイクルフェア
- ・移動図書館車の展示
- ・出版社発行PR誌のバックナンバー配布

年に一度、中心街（はっち・マチニワ・ブックセンター）で開催する「本のまち八戸ブックフェス」。市民参加型の一箱古本市や民間書店、飲食店については、予定していた出店数ですぐに決まってしまう応募があるなど、イベントの認知度は高まってきています。

はちのへホコテンと同日に開催することにより、中心街への来街動機に繋がっており、来場者からは、本の販売だけではなく、店主や来場者間の交流などができると評判も良く、継続しての開催、2日間に渡っての開催を希望する意見もいただいています。

ブックサテライト増殖プロジェクト

市民が本に触れる機会をつくる

今年度は新しく、青い森信用金庫の3支店（根城支店、河原木支店、南類家支店）に本箱が加わりました。各店舗からはお客様の待ち時間を豊かにしているとの嬉しいご報告をいただいています。



市内全域に拡がる 本棚スポット

市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本箱を設置。本箱の中にはそれぞれの店舗に合わせた選書をしており、ちょっとした時間を過ごすところに、その場所にあった本棚がある「まち」を目指します。

フリーペーパー「ほんのわ」

八戸と本をつなげるフリーペーパー

ほんのわ

HONNOWA

2020

紙から本ができるまで展

2016年12月に八戸ブックセンターがオープンして以来、商業企業として稼働しているギャラリー「紙から本ができるまで展」八戸で定期的に「紙」からどのような道をたどって「本」になるのかをさまざまな角度で紹介したい「そんな思いにはじまる本展示は、テーマを変えながら、そして三度製本さんにご協力いただいたまながら、2017年以降毎年開催していくです。『紙から本ができるまで展』では、関係者さんごとの協力を発行しており、それぞれ異なるテーマの展示です。そしてギャラリーのなかのフリーランスに開催。『紙から本ができるまで展』もまたご協力を！

2019
.....
DUO 中居裕恭 森山大道
写真・中居裕恭 森山大道
制作・中居裕恭

八戸山の写真家、森・中居裕恭さん。世界的写真家である森山大道さんの写真を抱きかかっている形でデザイン。二人の写真が交差する中居は、三度製本さんに感謝の意を、三度製本さんと森山大道さんのフリーランスに感謝の意を伝える時間を通して、読み返さなくてはならないのです。

八戸で書いてみよう

カンヰズブースを 使ってみよう

カンヰズブースは、その名のとおり「カンヰズ」、小袋で書くことに集中できる部屋です。小説やエッセイ、詩、雑感などジャンルは問いません。「書かしたい」「読みたい」「読解したい」「書かずに読んでみたい」「読解したい」といったことを目標にして執筆する方にも、便利かつ無料でご利用いただけます。

執筆する部屋として八戸ブックセンター一階に備えられたカンヰズブースは、開館から3年を経て230人を超える方にご参集いただきました(2019年現在)。H31年度は毎月平均15人ほどの利用があり、小説、エッセイ、読後の投稿・書評などの執筆など、さまざまな用途でご利用されています。参加の目的はさまざまですが、多くは作品を書ける方や、執筆時間を利用を目的として利用なさる方が多くなります。利用費無料で相談可です。ご自身の執筆スタイルにあわせてご利用いただけます。土、日曜日、8時～10時の利用時間が決まっていますが、お申し込みもままならない方もありますので、利用の際はご予約をおすすめします。

登録されている方からは、作品の発表の仕方についてご意見をいただくこともあります。自費出版も、地域の広くに読んでもらいたいという方、八戸市内でなっている印刷所をご紹介したり、少部数のみ行っているという方には、インターネットから気軽に申し込んでもめるワークスペースをご紹介します。二階にもお見立てしています。所定時間の為に行うことは、館内閲覧することもできます。

カンヰズブース登録者数など

年度	登録者数	参加人数	利用時間	延べ人数
平成28年度	77人	77人	60時	2,350人
平成29年度	66人	345人	3,740分	2,240人
平成30年度	74人	354人	3,630分	2,220人
平成31年度	41人	230人	2,040分	1,760人

執筆ジャンル

※小袋サイズ、250字程度用紙を1枚として算出

ジャンル	延べ人数	割合
小説	2,200人	72.0%
エッセイ	400人	13.0%
読後	340人	11.0%
書評	160人	5.0%
その他	100人	3.0%

月ごとの利用件数

※2021年12月～2022年12月

カンヰズブースの 申し込み方法はここから！

<https://library.city.yamaguchi.jp/kanzi/>

申し込みは誰でもできるが会員登録が必要で「小袋サイズ」の250字程度用紙を1枚として算出。会員登録は無料です。会員登録は、このホームページから申し込み、アカウント作成(会員登録)を行うことで完了いたします。

小説ってどうやって書くの？

『ショートストーリー講座』ミニレポート

八戸ブックセンターは執筆・出版の参考となる書籍・ワークショップを開催しています。小説の書き方を学ぶ講座として、2019年2月に小説家の田原智恵さんをお招きし、短くて不思議な小説をつくる『ショートストーリー講座』を開催しました。

1つめの「不思議な言葉やつくり」という作業では、まず、名前をいっつかずげてみて、その名のとつづを結び、風変わりな言葉のなかに一つだけ真似る(名前は、お名前、動物などでも構いません)。そして実際に使ってみた名を、おまじないや流行言葉などでもなく、おもしろいものをつくらせてみます。次に、さまざまな短く面白く感じることになったものをいくつか選んで、それぞれ短く文を完成させます。例えば、「夜更けに夢を見た」という不思議な言葉を使ってみると、「夜更けに夢を見た」を短くして再考するようになったアコ、これに、おまじないのつづをいれたらどうだろうと、それを使ったものメロリット・メロリット、物語や文の方向性を考えます。

最後に、2人の作品の発表の仕方を考えてみます。

ショートストーリーの発表は、読者と読者の両方を含めたいものとするので、発表ではまず、読者のためのアピールをします。また、おまじないのつづ、読者として、読者として、読者としてとまでいっていいです。

発表にはじかれるショートストーリーの発表。ものを書きこむにはおまじないのつづにもおまじないのつづです！

「たった40分で書くので必ず小説が書ける」
『ショートストーリー講座』
発行：NHN出版 価格：1,300円

ショートストーリーを
読むためのステップ

1. 不思議な言葉をつくる
2. 不思議な言葉から物語を広げていく
3. 想像した言葉や物語によるもの

© 2004 Blackwell Publishing Ltd, *Journal of Internal Medicine* 255: 103–110

◎ 讀解提示：自然、實際的

☐ 可能です。印刷にも対応。

◎ 買物です。読者や読友

耳鳴です。低周波の聴覚度によ

◎ 可能です。ただし、読者がお身内

... ..

7

◎編纂・製作(組版)

● 44

[illegible]

大体的予算も決めておきましょう。

が、その際の大事な判断材料とな

TEL: 0178-44-5111 (總機)

© 2005 The Authors
Journal compilation © 2005 Blackwell Publishing Ltd

ウェブサイトの最も良い例はウェブサイトを模範とし、

1. <http://www.who.int>

tacchini@ideafarm.it

東京のデザイン社

73-3580 JH81-19-5

27-5454 美国代用组11-1

1. 2. 3. 4.

二 内容とし

「本のまち八戸」の取り組みを知ってもらう

市内のブックスポットや、「本のまち八戸」の取り組みなどを紹介。2020 年版では、毎年開催しているギャラリー展「紙から本ができるまで展」を紹介し、「本」ができるまでの魅力を改めて伝える内容としました。

また、自費出版のポイントをまとめた Q&A や印刷所、デザイン会社の紹介などを掲載し、「書く人を増やす」ことにも繋げた内容とし、市内のみならず、全国への「本のまち八戸」の P R に活用しています。

《参考データ》 八戸ブックセンター決算額（令和２年度）

【歳 入】			単位：千円
科 目			金 額
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料（ドリンクスタンド分）	319
	国庫支出金	社会資本整備総合交付金	1,455
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金	1,113
	諸収入	電気等使用料	67
		書籍売上収入	10,864
		その他雑入（社会保険料等）	1,876
	小 計		15,694
一般財源（税等）		74,266	
歳入合計		89,960	

【歳 出】			単位：千円
A.選書、企画事業の実施に係るもの			
科 目		金 額	
人件費	職員3名、会計年度任用職員4名		39,174
報償費	自主事業謝礼		1,130
旅費	自主事業等旅費		59
需用費	食糧費		41
役務費	通信運搬費等		513
委託料	事業ディレクション業務等		5,014
歳出合計			45,931

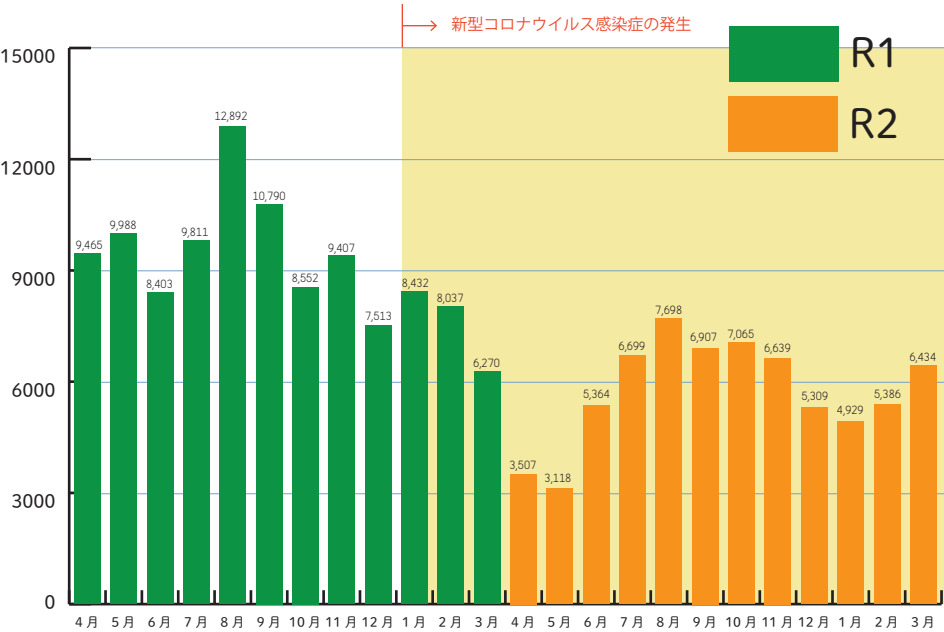
B.本の販売等に係るもの			
科 目		金 額	
役務費	手数料（クレジットカード決済手数料）		157
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料		23,147
	（うち書籍仕入分）		9,507
	（うち販売返品業務等分）		13,640
歳出合計			23,304

C.建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの			
科 目		金 額	
需用費	消耗品費		544
	印刷製本費		79
	光熱水費		863
	修繕料		50
	小 計		1,536
役務費	火災保険料等		72
	小 計		72
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務		2,099
	その他（ホームページ運用保守業務等）		446
	小 計		2,545
使用料及び賃借料	建物等借上料		15,344
	その他（複写機使用料等）		1,228
	小 計		16,572
歳出合計			20,725

歳出合計A+B+C	89,960
-----------	--------

《参考データ》来館者数、販売冊数・販売額推移

来館者数

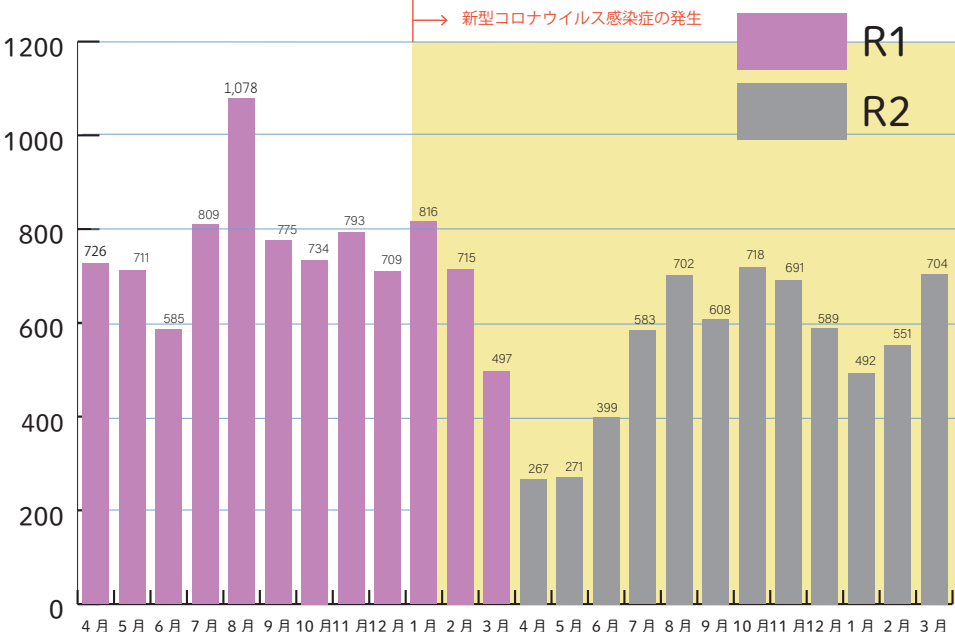


令和2年4月29日～5月10日まで新型コロナウイルス感染症の影響により休館

●来館者数

	累計	月平均	1日平均
平成29年度	114,599人	9,550人	368人
平成30年度	125,983人	10,499人	406人
令和元年度	109,560人	9,130人	355人
令和2年度	69,055人	5,755人	232人

販売冊数



令和2年4月29日～5月10日まで新型コロナウイルス感染症の影響により休館

●販売冊数

	販売冊数	月平均	1日平均
平成29年度	7,143冊	595冊	23冊
平成30年度	8,333冊	694冊	27冊
令和元年度	8,948冊	746冊	29冊
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊

●販売金額
(書籍のみ)

	販売金額	月平均	1日平均
平成29年度	10,516,785円	876,399円	33,816円
平成30年度	12,620,094円	1,051,675円	40,710円
令和元年度	13,489,446円	1,124,120円	43,655円
令和2年度	10,694,146円	891,179円	35,886円